

# 2015年度 環境活動レポート

(2015年4月1日～2016年3月31日)



## 山ニシステムサービス株式会社

〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13

TEL018-839-2881 FAX018-839-0051

発行日 平成28年7月1日

# 1. 環境方針

## ＜基本理念＞

山二システムサービス株式会社は、地球環境保護への取組みを社会的重要な課題であると認識し、情報産業におけるソフトウェア開発や諸サービスの提供などの事業展開において、企業活動と地球環境の調和を目指し、資源の有効活用と環境汚染の予防を認識し積極的な活動を行うことを誓約します。

## ＜活動指針＞

1. 地球温暖化防止のために、二酸化炭素の排出削減の推進に努めます。
  - ① 事業所内の電力消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
  - ② 事業所内のLPG消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
  - ③ 営業車の自動車燃料消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
2. 限りある資源の有効活用のため、廃棄物削減と資源の有効利用を推進し循環型社会への対応に努めます。
  - ① 事業所内の一般廃棄物を分別し排出量の削減を図ります。
  - ② リサイクル可能な物を一般廃棄物に混入しないよう努めます。
  - ③ 事務用品等のグリーン購入に努めます。
3. 水の適正な利用・適正な排水処理のため、事業所等における節水に努めます。
4. これらのことを実施しながら環境負荷に配慮したソフトウェア開発に努めます。
5. 環境配慮製品の販売促進に努めます。

地球環境保護への取組みにおいては、環境関連法規やシステムの構築に努め当社が約束した事項を遵守し、環境経営システムの適切な維持管理に努め、継続的な改善を図ります。

また、地域での環境保全活動への積極的な参加等地域貢献に努め、環境活動レポートの公表などにより地域との環境コミュニケーションに努めます。

制定日 平成22年 7月 1日

最終改訂日 平成27年12月18日（第3版）

山二システムサービス株式会社

代表取締役 西村 紀一郎

## 2. 組織の概要

### 2-1. 事業所名及び代表者名

- 山二システムサービス株式会社 ■ 代表取締役 西村 紀一郎

### 2-2. 事業の概要

- システム開発、コンサルティング及びソフトウェア開発
- システム導入、保守及び運用管理
- システム運用管理業務及び電算業務の受託
- コンピュータ関連業務
- グループウェア、電子化ソフトの販売
- コンピュータ機器販売
- 電子機材・通信機器等の物品販売および技術サービス

### 2-3. 所在地と連絡先（担当者）

- 住 所：本社 〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13  
(連絡先：TEL018-839-2881 FAX018-839-0051 Email: :webmaster1034@yamani-system.co.jp)  
青森営業所 〒030-0946 青森県青森市古舘一丁目 12-10  
(連絡先：TEL017-741-1384 FAX017-741-9457)
- 担当者：環境管理責任者 大野 慎  
環境管理事務局 加藤 統義

### 2-4. 事業の規模

- 創 業：昭和 51 年 1 月 ■ 資本金：2000 万円
- 売上高と従業員数：

事業年度	2013 年 (2013.4~2014.3)	2014 年 (2014.4~2015.3)	2015 年 (2015.4~2016.3)
売上金額（百万円）	850	651	727
従業員数（人）	60	57	62

注) 売上金額は、当社会計年度（当年 4 月～翌年 3 月まで）による。

## 3. 対象範囲と対象取組期間

### 3-1. 認証・登録範囲

認証登録 秋田本社（従業員数 57 名）

拡大範囲 平成 28 年まで青森営業所（従業員数 5 名）取得に向けて拡大予定

### 3-2. 環境活動レポートの対象取組期間

- 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

※当社会計年度（4 月～3 月）に合わせ、毎年 7 月に発行していきます。

## 4. 環境目標

### 4-1. 環境目標項目の選定

環境負荷の自己チェックと環境への取組の自己チェック、ならびに環境方針との整合性を図り、次の5項目について、環境目標を設定しました。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1) 二酸化炭素排出量 | 2) 廃棄物排出量    |
| 3) 総排水量     | 4) 環境配慮製品の販売 |
| 5) グリーン購入推進 |              |

### 4-2. 主な環境負荷の実績

2015年度（H25.4～H26.3）当社における主な環境負荷の実績は下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )			廃棄物排出量 (t)		総排水量 (m <sup>3</sup> ) (水使用量)
電力 (係数: 0.56)	LPG	ガソリン	一般廃棄物	産業廃棄物	
105,975	39.0	24,480	1.144	0.83	145.8

\* 東北電力 2012年度CO<sub>2</sub>排出実績 0.56kg-CO<sub>2</sub>/kWh

### 4-3. 環境目標（短期・中長期）の設定

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量の必須3項目ならびに自主設定項目について、単年度目標ならびに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2016年度（H26.4～H27.3）	2016～2018年度（3年間）
■二酸化炭素排出量	2015年度比 1.0%削減	2015年度比 3.0%削減
■廃棄物排出量	2015年度比 2.0%削減	2015年度比 6.0%削減
■総排水量（水使用量）	2015年度比 1.0%削減	2015年度比 3.0%削減
■環境配慮製品の販売	2015年度比 2.0%増	2015年度比 9.0%増
■グリーン購入推進	購入の促進	購入の促進

### 4-4. 2015年度（取組対象期間）環境目標値

4-2. の考え方に従って、2015年度実績値を基に、2016年度の具体的目標値を下記のように算出しました。

尚、2016年度からは青森営業所も活動範囲に加え、営業所の27年度実績値も踏まえ2016年度目標数値としました。

	2015年度実績（本社のみ） (H27.4～H28.3)	2016年度目標（営業所含む） (H28.4～H29.3)
■二酸化炭素排出量	130,494kg-CO <sub>2</sub>	145,518kg-CO <sub>2</sub>
1) 電力	105,975kg-CO <sub>2</sub>	112,361kg-CO <sub>2</sub>
2) LPG	39kg-CO <sub>2</sub>	1,610kg-CO <sub>2</sub>
3) ガソリン	24,480kg-CO <sub>2</sub>	31,547kg-CO <sub>2</sub>
■廃棄物排出量		
1) 一般廃棄物	1.114 t (機密文書処分含む)	1.238 t

2) 産業廃棄物	0.830 t	0.813 t
■総排水量（水使用量）	145.8m <sup>3</sup>	236.4m <sup>3</sup>
■環境配慮製品	2 品目	3 品目
■グリーン購入推進	購入の推進	購入の推進

## 5. 主な環境活動計画

### 5-1. 二酸化炭素排出量の削減

#### 1) 電力使用量の削減

- 室内温度は、冷房時 28℃、暖房時 22℃の設定とする
- PC はスリープモードに設定する
- 昼休み及び使用していない箇所の不要な照明を消灯する
- 電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する
- 時間外勤務の徹底管理
- 月二回の定時退社日の促進

#### 2) LPG使用の削減

- 夏季期間の湯沸し器の使用を制限する

#### 3) ガソリン・軽油使用量の削減

- エコドライブの徹底
- 車両日報により、始業点検、走行距離、燃費を把握する
- 整備工場にて3ヶ月に1回のスケジュール点検等により、車輛の完璧な状況を保つ
- 車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する

### 5-2. 廃棄物排出量の削減

- 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする
- 外部からのゴミはなるべく持ち込まない
- 両面コピーや縮小コピーの励行

### 5-3. 排水量（水使用量）の削減

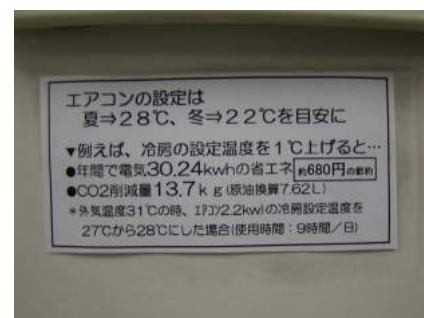
- 手洗い時など、水を出しっぱなしにしない
- 手洗い場などへ節水ステッカーの貼り付け
- 受水槽の定期的点検を行う

### 5-4. 環境配慮製品の販売促進

- 環境配慮製品の営業活動の推進（無事故プログラムDR・E-COOL照明）
- 取扱っている環境配慮製品のホームページによるPR

### 5-5. グリーン購入推進

- エコマーク認定商品の購入に努める



## 6. 環境目標の実績 (H25.4~H26.3)

環境目標の達成状況は下記に示すとおりでした。

### 6-1. 二酸化炭素排出量

#### 1) 全体 (目標: 1.0%削減)

2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
144,015kg-CO <sub>2</sub>	142,575kg-CO <sub>2</sub>	130,494kg-CO <sub>2</sub>	13,521kg-CO <sub>2</sub>	9.4%	◎

【コメント】二酸化炭素排出量全体で、昨年度同期比と比べ 12.4%増えた。原因として、サーバー等の設備が増えたために電気使用量の増加が大きかった。

#### 2) 電力使用 (目標: 1.0%削減)

2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
119,845kg-CO <sub>2</sub>	118,647kg-CO <sub>2</sub>	105,975kg-CO <sub>2</sub>	13,870kg-CO <sub>2</sub>	11.6%	◎

【コメント】昨年度同期比で、0.6%増加し、目標を達成できませんでした。

室内温度の設定・照明の消灯・PCのスリープモード設定など努力していましたが、電気使用量増加の原因としては、サーバー等の設備機器の増設によるものや、営業時間を越えて社内に残っている従業員がいることが原因と考えられますので、適時適切な労務管理の徹底を図るほかに、月に二日の定時退社日も実施しました。

#### 3) 灯油・LPG使用 (目標: 0.2%削減)

2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
36.3kg-CO <sub>2</sub>	36.2kg-CO <sub>2</sub>	39.0kg-CO <sub>2</sub>	▲2.8kg-CO <sub>2</sub>	▲7.7%	×

【コメント】LPGは給湯にしか使用しておりませんが、使用しない時は元栓を閉めるなど、無駄な使用をしない活動成果をもっと徹底して行います。

#### 4) ガソリン・軽油使用 (目標: 1.0%削減)

2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
24,134kg-CO <sub>2</sub>	23,892kg-CO <sub>2</sub>	24,480kg-CO <sub>2</sub>	346kg-CO <sub>2</sub>	▲1.43%	△
燃費 17.3km	燃費 17.4km	燃費 17.7km	0.4km	2.3%	◎

【コメント】ガソリンの使用量は 11460 増えましたが、業務量の増加によるもので、ガソリン使用については削減よりも燃費を重視しており、昨年度同期よりガソリン 10 あたりの走行距離では 17.7 km と 2.3% km 燃費が向上しましたので達成できたと評価できます。

※1…削減量・削減率の欄において、▲印は、マイナス (増加) を示す。

※2…評価: ◎→達成できた、○→削減したが目標未達、△→昨年度とほぼ同じ、×→昨年度より増加

## 6-2. 廃棄物排出量

### 1) 一般廃棄物（目標：2%削減）

生ごみ・ペットボトル・ビン・缶・紙ダンボール・新聞紙など、6種類の分別収集としては634 kgと昨年よりも368 kgの増となりましたが、今年度は機器販売が多くあり、そのダンボールの廃棄が大量にあったのが原因と考えられ、またシュレッター車による個人情報等機密書類の廃棄が510 kgありましたが、結果的には7.2%の増となりました。

ビン・缶・ペットボトルの再利用可能な廃棄物の量が著しく減り、その要因としては自動販売機で購入した物は、回収資源として自動販売機設置業者に回収してもらうのが徹底されたからです。

- 紙類：段ボール類・新聞紙・廃コピー用紙・雑紙類・シュレッダー屑（再資源化）
- ビン・缶・ペットボトル（再資源化）
- その他の可燃ゴミ：塵芥類・紙くず類・布類など（焼却処理）
- 個人情報等機密書類

対象期間内における排出量の実績値は下記のとおりです。

[単位：kg]

廃棄物の種類	排出量	廃棄物の種類	排出量
生ゴミ	396	缶	13
ペットボトル	22	紙・段ボール	146
ビン	7	新聞紙	50
個人情報等機密書類	510		×

### 2) 産業廃棄物（目標：2%削減）

事業の内容からして生産過程において定期的に排出される産業廃棄物はない業種ですが、今年度は社内の改装工事にともない古い設備や備品等の廃棄が大量に発生しました。産業廃棄物が発生した場合は、分別の徹底とリサイクル率を向上させ目標をクリアするよう取組を進めて行きます。

[単位：t]

廃棄物区分	処理方法	排出実績
①廃プラスチック類 A	リサイクル	680
②廃プラスチック類 B	中間処理粉砕	0
③金属くず（有価物） A	リサイクル	150
④金属くず（有価物） B	中間処理粉砕	0
廃棄物 B		0
リサイクル率 $A \div (A+B)$		100%
		評価※3
		△

※3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達

## 6-3. 総排水量・水使用量（目標1.0%削減）

総排水量は、地下水は使用していないので、水道の使用量と等しくなります。昨年度と比べ15.3%の節減となりました。

2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
149.5m <sup>3</sup>	148.0m <sup>3</sup>	145.8m <sup>3</sup>	3.7m <sup>3</sup>	2.5%	◎

※1…削減量・削減率の欄において、▲印は、マイナス（増加）を示す。

※2…評価：◎→達成できた、○→削減したが目標未達、△→昨年度とほぼ同じ、×→昨年度より増加

#### 6-4. 環境配慮製品の販売

環境主力製品である省エネ照明のE-COOLは建物関係にエコ照明が行き渡り苦戦するところでもあります。

今後は照明等に拘らずに、更なる環境配慮製品の商材を増やし販売を行いたいと思います。

2014 年度実績	2015 年度目標	2014 年度実績	評価※3
339 万円	2877 万円	449 万円	×

※

3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達



#### 6-5. グリーン購入推進

グリーン購入については、本年度予算を考慮し、一般商品とエコマーク商品の購入価格を比べて10%以上の差がある場合は購入を控えたため、目標より購入数が少なかったが、今後はグリーン購入率の促進をはかります。

2014 年度実績	2015 年度目標	2015 年度実績	評価※3
2 品目	2 品目	2 品目	△

3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達



## 7. 環境活動計画の取組結果の評価

### ならびに次年度の取組内容

#### 7-1. 環境活動計画の取組状況の評価

○…十分に取組んだ △…ある程度取組んだ ×…取組不十分（未実施） -…評価保留

取組項目		具体的活動計画	評価
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量削減	■室内温度は、冷房時 28℃、暖房時 22℃の設定とする	○
		■PC はスリープモードに設定する	○
		■昼休み等及び使用していない箇所の不要な照明を消灯する	○
		■電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	○
		■週一日NO残業日を設ける（月二回の定時退社日設けた）	○
	L P G 量削減	■夏季期間の湯沸し器の使用を制限する	○
	ガソリン使用量の削減	■エコドライブの徹底	○
		■車輻に無事故プログラムドライブレコーダを取り付けエコ運転の指導を行う	-
		■車両日報により、始業点検、走行距離、燃費を把握する	○
		■整備工場にて3ヶ月に1回のスケジュール点検等により、車輻の完璧な状況を保つ	○
■車輻入れ替え時は、エコカーを優先して購入する		○	
廃棄物排出量の削減	■廃棄物の定量の把握をする	○	
	■分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○	
	■外部からのゴミはなるべく持ち込まない	○	
	■両面コピーや縮小コピーの励行	○	
排水量（水使用量）の削減	■手洗い時など、水を出しっぱなしにしない	○	
	■手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付け	○	
環境配慮製品の販売	■環境配慮製品の営業活動の促進（トナーカッターの販売・無事故プログラムDR・E-COOL照明）	△	
	■取扱っている環境配慮製品のホームページによるPR	○	
グリーン購入の推進	■エコ・省エネ製品の把握	○	
	■エコマーク認定商品の購入推進に努める	△	

## 7-2. 次年度の取組内容（方向性）

27年度は、新たな活動に取組み一層の節電に努め、新たな環境商品発掘との販売促進を行います。

# 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟の有無

2016年3月31日付において、当社に関わる環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの指摘・苦情・訴訟についても、過去3年間一度もありません。

# 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 9-1. 環境経営システムの有効性の評価

環境への取組みを開始してから5年経ち、協力会社からの環境への取組み及び当社の「環境方針の理念及び活動方針」についての問い合わせ等も多くあり、その場合はエコアクション21の環境マネジメントシステムを構築し認証されていることが大きな信用となっております。

今年度は環境活動を始めてから毎年電気の使用量の増が問題とされておりましたが、27年度は電気使用量が初めて前年比11.6%の削減が出来ました。

今後、環境管理責任者を中心として、今年度の活動結果を踏まえて、PDCAサイクルを確実に実行し、更なる環境意識の向上とコスト削減の取組に努めていく所存です。

諸サービスの提供などの事業展開においては、企業活動と地球環境の調和を目指し、資源の有効活用と環境汚染の予防を認識し積極的な活動を行うことを誓約します。

## 9-2. 環境経営システム変更の必要性

現段階で、環境方針、環境目標、環境活動計画等、システムの主要部分について、変更の必要はないと判断していますが、環境目標の設定については28年度の達成結果を考慮してレベルアップさせていきたいと思えます。

## 9-3. 次年度以降の取組の方向性

今年度は、長年の課題であった電気使用量の削減は達成出来ましたが、廃棄物の増など実績が目標数値達成に至らなかった項目があり、活動状況も十分なものとはいえませんでした。

次年度の軽減取組活動については、適用範囲外であった青森営業所も活動範囲として含め、27年度の実績達成数値と反省点を基にして計画された28年度の目標計画達成のために、全社一丸となってエコアクション21の活動に取組みます。

この環境活動レポートは、ご希望の方に差し上げています。ご希望の方は、本社窓口でお申し出いただくか、下記にご連絡ください。  
また、エコアクション21中央事務局のHP（<http://www.ea21.jp/>）でもご覧いただけます。

〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13  
山ニシステムサービス株式会社  
TEL018-839-2881 FAX018-839-0051  
Email: [webmaster1034@yamani-system.co.jp](mailto:webmaster1034@yamani-system.co.jp)